

ふるさと食材伊万里の日

12月 みかん



今日はふるさと食材伊万里の日です。

12月のふるさと食材は「みかん」です。

今が旬のくだもの「みかん」について勉強しましょう。



寒くなると、みかんがおいしくなりますね。

皆さんはみかんというと、5～7cmぐらいの大きさの、手で皮をむいて食べるみかんを思い浮かべると思います。

『こたつでみかん』と言うときのみかんですが、このみかんの種類は、「温州みかん」といいます。



みかんは、熱や力になる黄色の食べ物、体をつくるもとになる赤の食べ物、体の調子を整える緑の食べ物のどれに入るでしょうか。

わかる人いますか？

そうですね、みかんは色は黄色っぽいですが、緑の食品です。

寒い冬に負けないように、体を強くしてくれて、風邪をひかないように助けてくれる食べ物の一つです。

Qクイズ

みかんが日本^{にほん}でいちばん多く食べられる果物^{くだもの}になったのはなぜでしょう。

① 品種改良^{ひんしゅかいりょう}により、出回る期間^{でまわ きかん}が長^{なが}くなったから

② 昔^{むかし}、中国^{ちゅうごく}の温州^{うんしゅう}からたくさん輸入^{ゆわい}していたから

③ せん定^{てい}する必要^{ひつよう}がなく、たくさんのみかんがとれるから



ここでクイズです。

みかんが日本でいちばん多く食べられる果物になったのはなぜでしょう？

- ① 品種改良により、出回る期間が長くなったから
- ② 昔、中国の温州からたくさん輸入していたから
- ③ せん定する必要がなく、たくさんのみかんがとれるから

Aコタエ

① ひんしゅかいりょう品種改良により、でまわり出回る
きかん期間が長くなったから

ひんしゅかいりょうみかんは品種改良により「ごくわせい極早生」「せ早生」「なかくて中手」「おくて晩生」などとよばれるように長い期間収穫できます。さらに春から夏にかけては「ハウスみかん」も出回り、一年中食べられるようになったからです。



ひかり光センサー選果機で
より分けられる。



答えは、『①品種改良により、出回る期間が長くなったから』でした。

みかんは品種改良により「極早生」「早生」「晩生」などとよばれるように長い期間収穫できます。

さらには春から夏にかけては「ハウスみかん」も出回り、一年中食べられるようになったからです。



みかんは、夏の初めの五月ごろ、白い花を咲かせる。花が散って15日ほどすると、小さな実が出てくる。

写真提供：JA紀南

一つのみかんを大きく実らせるためには、20枚ほどの葉っぱが必要。そのため実を摘んで、数を調整する。

みかんは、夏の初めの五月ごろ白い花を咲かせます。

一つのみかんを大きく実らせるためには20枚ほどの葉っぱが必要になるそうです。

そのため実を摘んで数を調整されるそうです。



みかんは、冷たい風にあたると葉っぱが落ちてしまい実がつかないので、暖かい地方の和歌山県、愛媛県、静岡県、佐賀県などがおもな産地となっている。

10月から12月になると次第に黄色く熟し、甘くおいしくなる。



せん定講習会では、枝の一部を切る技術を教わる。



みかんは冷たい風にあたると葉っぱがおちてしまい実がつかないので、暖かい地方の和歌山県、愛媛県、静岡県、佐賀県がおもな産地です。私たちが住む伊万里市でも栽培がされています。今日のみかんも伊万里でとれたものを納品してもらいました。感謝してたべましょう。